

---

# ゲーたらサンタのトナカイ

りんご

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

グーたらサンタのトナカイ

### 【Nコード】

N5891P

### 【作者名】

りんご

### 【あらすじ】

ずっとグーたらサンタを呆れたトナカイはある決心をする。

クリスマスソングが楽しく流れる中、プレゼント渡しの準備にのり  
おくられている  
サンタ達がいた。

「サンタさん！今日は一億八千万人にプレゼント渡さなきゃいけないですよ！！」

でも、返ってくるのはテレビを見て笑っているサンタの声。

トナカイは、呆れて怒鳴った。

「サンタさん、真面目にしてくださいっ！」

「あーもーめんどくさいのう・・・」

「しょーがないでしょ！サンタなんだから。」

「う・・・む。」

「もうっ！早く行きますよ！」

「・・・じゃ、配ったら、クッキーたくさんちょうだいね」

「ああ、もう！分かりましたよ。」

サンタの趣味で、ソリはお菓子だらけの、

お菓子の家ならぬお菓子のソリになっていて、

しかもソリのサンタが座るイスは、リクライニングマッサージチェアになっている。

おかげでトナカイは、

重いし、これら全て払わされたので、

大変困っている。

一方サンタは、お菓子をもぎ取りながらリクライニングで満点の星

空を見たり  
寝たりしている。

プレゼントを全て配り終わると、  
サンタは、ソリに熟睡した。

トナカイは、申し訳なさそうに決心し、置手紙と大量のクッキーを  
置いた。

へサンタさん、  
やっぱりあなたと一緒に行動するのは  
私には務まりません。

だから、  
今日、172回目のクリスマスをおいて、  
別れさせていただきます。  
ごめんなさい。

トナカイ

そして猛ダッシュで果てしない空のどこかに消えていった・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5891p/>

---

ゲーたらサンタのトナカイ

2010年12月19日16時12分発行